

(本60,000円)

&lt;群馬大学アナログ集積回路研究会&gt;

# 実企業から講師招き 第89回講演会開催

「LEDドライバーアイC」を

東光の松田氏が解説

群馬大学アナログ集積回路研究会(群馬県桐生市天一七三〇一七八九)では、

同共同研究イノベーションセンターと共に

セントラルと共

催で、第八九回講演会を七

月末に開催し

た。今回は「液

晶パックライ

ト及び照明用

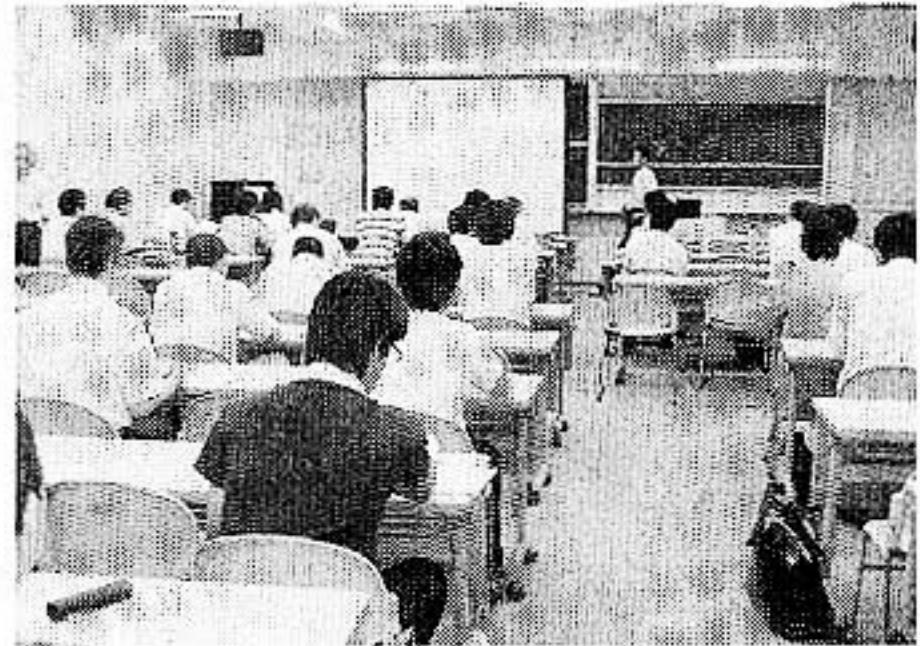
LEDドライ

バーアイCの技

術とその動向」と題し、

東光㈱半導体

熱心に聴講する学生達



事業セントラルセンター長

(工学博士)の松田順一氏

(同大学共同研究イノベーションセンター客員教授)

が講演した。

最初に昇圧型DC-DC

コンバータ動作、LED

ドライバにおける調光方式

など基本構造の説明を行つ

た後、実ビジネスでの応用

事例を実製品ベースに紹介。研究開発、理論のみに

とどまらず、実際の製品開発事例に触れることで、聴講していた学生は刺激を受けたようだ。

講演の中で、松田氏は、東光の白色LEDバックライトドライバーアイCがP-C、カーナビゲーション、テレビの液晶バックライト、カメラ用フラッシュ、照明などに実採用(もしくは製品開発中)されている事例を紹介した。

ノートPC向けには、三インチ前後の製品に量産出荷中の、二五mA LEDを六〇灯光らせるIC「TK61224BQ5」のか、現在開発中の同八〇灯光らせるIC「TK61225」に対応IC「TK61225AQ7」を紹介した。

力アナビ/PND用では、汎用タイプ白色LEDドライバーアイC「TK61220AQ4」を量産中であるほか、純正用として一五〇mA LEDを四〇灯光らせるIC「TK612X1892F」などを紹介している。

ト用として、TK61220AQ4(並列同期機能付き)を紹介。複数のユニットを並列接続して一モジュールを構成する構造を説明した。たとえば三五〇mAのLEDを直列に一〇灯、二チャンネル構成で計二〇灯光らせるというようにして、一〇〇灯までドライバ可能だという。

カメラ用フラッシュLEDドライバーアイC「TK11894AM8」「TK1」の実態を学べる同様の講演会などを定期的に開催している。産業界の若手技術者の育成の観点からも注目され